

宮 崎 の 帰 化 植 物

荒 木 徳 蔵

Naturalized Plants Found in Miyazaki Prefecture

Tokuzo ARAKI

はじめに

筆者は、1974年宮崎県総合博物館研究紀要 No. 2¹⁾に『宮崎県の帰化植物』と題して、宮崎県内に産する帰化植物が35科165種（種・変種・品種を含めて169種類）あることを報告した。それまでは、1937年に日野巖と遠藤茂によって著された『List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture』と、1952年平田正一によって記された『宮崎県植物目録補遺(1)』の中に上げられた帰化植物名を拾い見る程度で、ほとんどまとまった報告がなされていなかった。続いて筆者は、翌1975年同じく宮崎県総合博物館研究紀要 No. 3²⁾に『宮崎県の帰化植物（続報）』として、10科（新出1科）26種（27種類）を追加し、宮崎県帰化植物の研究と侵入の歴史について述べると共に、県内での分布状態についても明らかにした。その後、1979年同研究紀要 No. 5³⁾に『宮崎県の帰化植物目録補遺（II）』として16科（新出2科）28種を加え、更に1983年には同研究紀要 No. 8⁴⁾に『宮崎県の帰化植物（第4報）』として、宮崎県帰化植物の総数は1982年末で40科242種・6変種・1品種（249種類）であることを報告した。なお、この内容はそのまま平田正一著『宮崎県植物誌¹⁰⁾』の宮崎県産植物目録にも登載されている。

以上のほか、筆者は県内産帰化植物について1974年と1977年に『宮崎県の帰化植物²⁾』及び『宮崎県の帰化植物追加⁴⁾』と題して植物採集ニュースに発表した。なお個々の植物の特徴については、『宮崎の植物(I)⁹⁾』に『外国から来た野草』として紹介したほか、宮崎日々新聞に1988年から1989年にかけて連載し紹介した。

しかしながら、筆者が宮崎県内の帰化植物について1983年に報告してから既に10年近くを経過している今日、分布状態もかなり変化をみ、記載漏れや新規に採集したものもあるので、それらを含めここに改めてまとめることにした。

稿を草するに当たって、植物の同定と種々ご指導を賜った長田武正先生及び、資料提供をいただいた県内植物研究家諸氏に深く感謝の意を表する。

1. 宮崎県帰化植物の研究と侵入の歴史

宮崎県の帰化植物研究の歴史をたぐる上で、最も古い参考文献は、前述の通り1937年に日野巖と遠藤茂によって報告された『List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture⁷⁾』である。これに、ヒメジョオン・アレチノギクなど13科23種類の帰化植物が記録されているが、この『List』に記されている種類のうちたまたま残存していた標本により、ノボロギクが1926年(昭和元年)に採られたことが確認されたので、実質宮崎県の帰化植物の歴史は昭和年代に入ってから始まることになる。

その後、前記『List』が発表されて15年後の1952年、平田正一によって『宮崎県産植物目録補遺(Ⅰ)⁸⁾』が著され、その中にシマトキンソウ・オニノゲシなど13科(新出7科)20種類の帰化植物が記載されていたので、これによって当時の帰化植物の状態を知ることができる。

以後は、筆者が宮崎大学農学部所蔵標本をはじめ、宮崎県総合博物館収蔵標本及び県内外の研究機関や個人所有の標本を当たるかたわら、実地に調査して、その結果1974年に35科169種類の帰化植物を報告し、翌1975年には10科(新出1科)27種類を追加し、更に1980年には16科(新出2科)28種類を加え、続いて1983年には宮崎県産帰化植物の総数を40科249種類としたことは既に「はしがき」で述べた通りである。これに今回の訂正追加を入れると1990年の現在では、後記目録に示したように42科252種・7変種・1品種即ち260種類を数えることができるようになった。もちろんこの中には、史前帰化植物¹⁵⁾は加えていないし、大型木本やタケ類も含めていない。

そこで、前記『List』が刊行された1937年つまり昭和の初期、次に『同補遺』が発表された1952年の第2次大戦後まもなく、更にその15年後の1967年、そして1975年と、現在の1990年に、それぞれ記録された帰化植物をまとめて表1とした。なお、1937年と1952年までに採られた帰化植物で前記『List』及び『同補遺』に記載されていないが、標本で確認したものは欄(他の標本)を設け表中に加えた。ただし、『List』や『同補遺』に記載されている帰化植物名でも、カナダアキノキリンソウ・オオフサモなど、後日同定の誤りが明確になったものは除外した。

この表1は、いわば宮崎県産帰化植物の年代一覧表ともいうべきものであって、それぞれの年代に帰化していた植物の種類を知ることができる。

表1の中には、栽培植物が逸出野生化したものや、放浪植物²⁴⁾の段階にあると思われるものも含まれている。これらは生育場所だけでなく、年数をかけて自生を確認する必要がある、かなり判断の困難なものもある。

次に宮崎県産帰化植物の種類数の変化を、全国での種類数の変化³¹⁾と比較してグラフにすると、図1のようになる。

採集記録した時期を本県への侵入の時期と断定するのは、あまりにも早計であるが、やはり宮崎県においても全国的傾向の通り、第2次大戦後帰化植物の種類数が増えはじめ、特にここ20年位前から急激に増加しつつあることは認められる。しかし、本県の場合ほとんどの帰化植物が日本侵入の時期からかなり遅れて採集記録されている。ちなみに、1968年から1975年までに新たに県内で記録された109種類の植物のうち、セイヨウタンポポ・オランダミミナグサ・ナギナタガヤなど41種類が明治以前に日本に渡来したものである。これは宮崎県での植物研究の遅れもさるこ

表1 宮崎県産帰化植物の年次別記録

年別 記録の 根拠 科 名	1937 List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture	他の標本	1952 宮崎県産植物目録補遺(1)	他の標本	1967 標 本	1975 標 本	1990 標 本 (一部文献)
キク科	ハウキギク・ヒメジョオン・アレチノギク・ヒメムカシヨモギ・ノボロギク・ノゲシ・オナモミ	オオアワダチソウ	シマトキンソウ・オニノゲシ	ベニバナボロギク	カッコウアザミ・ブタクサ・コバノセンダングサ・セイタカタウコギ・ヒレアザミ・ダンドボロギク・ハキダメギク・チチコグサモドキ	セイヨウノコギリソウ・オオブタクサ・カミツレ・モドキ・ヒロハハウキギク・キンバイタウコギ・コセンダングサ・シロノセンダングサ・イガヤグルマギク・オオキンケイギク・ハルシャギク・キバナコスモス・マメカミツレ・ハルジョオン・ケナシヒメムカシヨモギ・ヘラバヒメジョオン・オオアレチノギク・タチチコグサ・ヒメヒマワリ・キクイモ・ブタナ・カミツレ・イヌカミツレ・キヌガサギク・セイトカアワダチソウ・セイヨウタンポポ・オオオナモミ	キゾメカミツレ・クソニンジン・ウスベニチチコグサ・オオアザミ・シオザキソウ
キキョウ科					ヒナキキョウソウ	キキョウソウ	
オミナエシ科					ノジシャ		
アカネ科					オオフタバムグラ・ハシカグサモドキ		メリケンムグラ
オオバコ科			ヘラオオバコ (オオヘラオオバコを含む)			ニチナンオオバコ	ツボミオオバコ
ゴマノハグサ科			タチイヌノフグリ・オオイヌノフグリ				セイヨウヒキヨモギ
ナス科	キンギンナスビ		センナリホオズキ		ワルナスビ・タマサンゴ	ヨウシュチョウセンアサガオ・オオセンナリ	シロバナチョウセンアサガオ・オオバナチョウセンアサガオ・ツクバネアサガオ・ヒラナス
シソ科						イヌヒメコズチ	ツルジュウニヒトエ・オランダハッカ・エゴマ
クマツヅラ科						ヤナギハナガサ	アレチハナガサ
ヒルガオ科		マルバアサガオ				セイヨウヒルガオ・マルバルコウ・アメリカアサガオ	アメリカネナシカズラ

年別 記録の 根拠 科 名	1937 List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture	他の標本	1952 宮崎県産植物目録補遺(1)	他の標本	1967 標 本	1975 標 本	1990 標 本 (一部文献)
サクラソウ科						マルバアメリカアサガ オ・マメアサガオ・モミ ザルコウ・ホシアサガオ	アサガオ・ツタ マルバアサガオ
セリ科 ウコギ科 アカバナ科			オオマツヨイグ サ		マツバゼリ	メマツヨイグサ(アレチ マツヨイグサを含む)・コ マツヨイグサ・マツヨイ グサ	アカバナリハ コベ ノラニンジン カミヤツデ
ジンチョウゲ科 ミソハギ科							ミツマタ ホソバヒメミソ ハギ
オトギリソウ科			キンシバイ	コゴメバ オトギリ			
アオイ科 トウダイグサ科	コニシキソウ	イチビ	フユアオイ	オオニシ キソウ	キンゴジカ	アメリカキンゴジカ シマニシキソウ	ハイニシキソ ウ・チャボタイ ゲキ
カタバミ科	ハナカタバミ		ムラサキカタバ ミ			イモカタバミ	フヨウカタバミ
フウロソウ科 マメ科	ゲンゲ・ムラサ キツメクサ・シ ロツメクサ				アメリカフウロ コメツブウマゴ ヤシ	アメリカクサネム・クス ダマツメクサ・コメツブ ツメクサ・ベニバナツメ クサ	イタチハギ・ヒ ユウガミヤコグ サ・ネビキミヤ コグサ・ウマゴ ヤシ・ムラサキ ウマゴヤシ・シ ロバナシナガワ ハギ・コシナガ ワハギ・シナガ ワハギ・ナヨク サフジ
バラ科 ベンケイソウ科						オオヘビイチゴ	メキシコマンネ ングサ
アブラナ科	ハマダイコン		マメグンバイナ ズナ・オランダ ガラシ		カラクサナズ ナ・グンバイナ ズナ	ヒメアマナズナ・クジラ グサ・オハツキガラシ・ ノハラガラシ・イヌカキ ネガラシ	ショカツサイ・ セイヨウノダイ コン・ミヤガラ シ・ハタザオガ ラシ・カキネガ ラシ
ケシ科 キンボウゲ科 ナデシコ科	シュウメイギク		オオツメクサ (ノハラツメク サを含む)・コハ コベ			モンツキヒナゲシ オランダミミナグサ・ノ ハラナデシコ・ヨツバハ コベ・オオシラタマソ ウ・ホザキマンテマ・シ ロバナマンテマ	ヒナゲシ

年別 記録の 根拠 科 名	1937		1952		1967	1975	1990	
	List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture	他の標本	宮崎県産植物目録補遺(1)	他の標本	標 本	標 本	標 本 (一部文献)	
スベリヒユ科 ザクロソウ科 ヤマゴボウ科			アメリカヤマゴボウ			ヒメマツバボタン クルマバザクロソウ		
オシロイバナ科 ヒユ科	イヌビユ・ノゲイトウ		ツルノゲイトウ・ヒユ・ハリビユ		ホソバツルノゲイトウ・ホソアオゲイトウ・ホナガイヌビユ ケアリタソウ (アリタソウを含む)	オシロイバナ ハイビユ・ホナガアオゲイトウ・スギモリゲイトウ・アオゲイトウ アメリカアリタソウ		
アカザ科	アカザ・ホウキギ		コアカザ					
タデ科	ヒメスイバ					シャクチリソバ・オオケタデ・エゾノギシギシ	ソバカズラ・ツルドクダミ・アレチギシギシ・ナガバギシギシ キバナニワゼキショウ ナツズイセン・サフランモドキ タカサゴユリ	
アヤメ科	ニワゼキショウ					キショウブ・ヒメヒオオギズイセン		
ヒガンバナ科								
ユリ科 ミズアオイ科 ツユクサ科 イネ科	ホテイアオイ コバンソウ・ヒメコバンソウ・ジュズダマ	コメヒシバ		ハナニラ ハイコヌカグサ・カモガヤ	ハタケニラ コヌカグサ・メリケンカルカヤ・タツノツメガヤ・シコクビエ・ネズミムギ・ホソムギ・ボウムギ・シマズズメノヒエ・キシユウスズメノヒエ・オオアワガエリ・セイバンモロコシ (ヒメモロコシを含む)	ノハカタカラクサ ヌカススキ・ハルガヤ・ミナトカラスムギ・カラスムギ・オートムギ・イヌムギ・カラスノチャヒキ・ウマノチャヒキ・メウマノチャヒキ・ローズソウ・オヒゲシバ・スズメガヤ・シナダレスズメガヤ・コスズメガヤ・オニウシノケグサ・イヌナギナタガヤ・ナギナタガヤ・ムラサキナギナタガヤ・シラゲガヤ・ミナトムギクサ・ミノボロモドキ・エダウチネズミムギ・ドクムギ・オオクサキビ・コアメリカスズメノヒエ・アメリカスズメノヒエ・タチスズメノヒエ・カナリークサヨシ・ヒメカナリークサヨシ・コイチゴツナギ・ナガハグサ		
トチカガミ科							コカナダモ・オオカナダモ	
計	42	25	4	19	6	36	108	62
		29		25				

註：計欄の数字は、科の数及び種類数(種、変種、品種を含む)を示す。

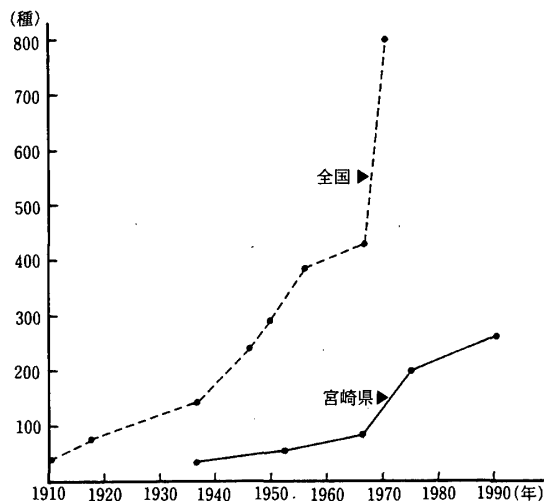
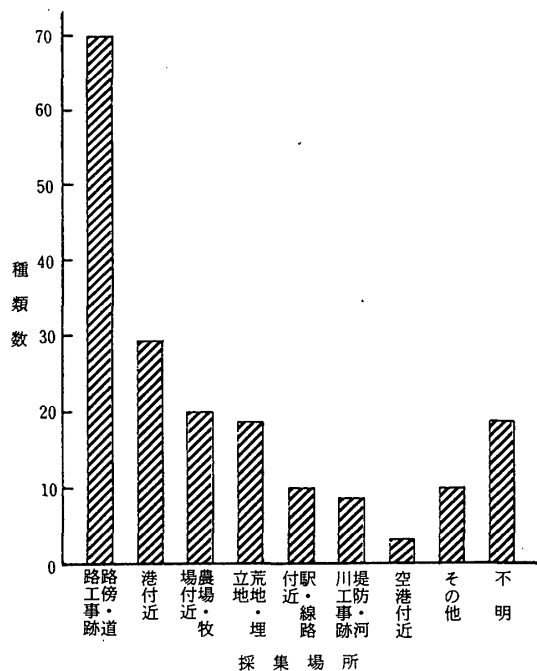


図1 帰化植物の種類数の年次変化



註：1968年から現在までの記録

図2 宮崎県産帰化植物の最初の採集場所と種類数

とながら、地理的条件特に交通網の未発達や、直接外国便の出入りする大きな港湾や空港のないことが影響している。

図2は、1968年以降宮崎県で新しく記録した帰化植物が、どのような場所で発見（採集）されたかを示したものである。最初に発見された場所即宮崎県での侵入地とは考えられないまでも、帰化植物がどのような場所に出現し易いかはわかる。

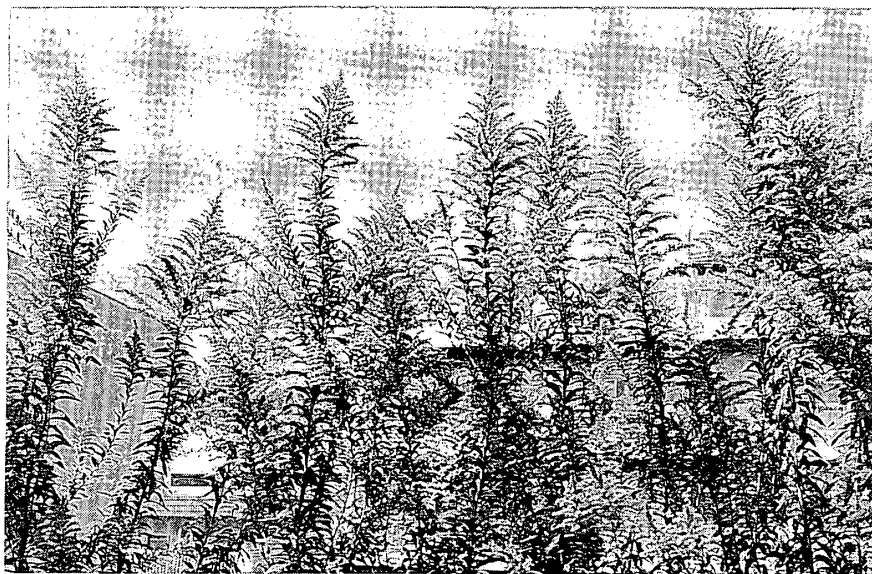
この図で最も多いのは、路傍・道路工事跡である。近年バイパスや高速道路の敷設及び道路の改修工事が盛んで、その浸食崩壊防止のためにのり面（法面）処理として吹き付けたオニウシノケグサ（トール・フェスク）やシナダレスズメガヤ（ウィーピング・ラブ・グラス）などが野生化している。従って新しく開通した道路は、まさに帰化植物の博物館である。例えば、1974年開通の宮崎市一ツ葉有料道路だけでもこの年に12種類もの新しい帰化植物が記録された。このように道路新設に伴って帰化植物は今後ますます増加するものと思われる。この道路工事跡と同様に堤防や河川工事跡にもコイチゴツナギ・メリケンムグラなど、いくつかの帰化植物が見出されている。このほか、路傍ではキバナコスモス・オシロイバナ・ハルシャギクなど園芸植物の逸出品もよく採られる。

次に多いのが港で、駅・線路付近及び空港などにも輸送機関によって運ばれ侵入したと思われるものがある。特に港の場合、これらがすべて直接外国からの移入とは考えられないが、オオアザミ・ネビキミヤコグサ・イヌヒメコズチ・

アカバナリリハコベなど県内では珍しい植物がときどき出現する。なかには、日向市細島港で採られたヒュウガミヤコグサのように日本の新帰化植物と考えられるものもある。1975年、日向市細島港で帰化率（帰化植物の種類数/全植物の種類数×100）を調査したところ、日向市街地30%に対して細島港では56%もの高数値を示した。また駅や鉄道線路付近にも帰化植物の侵入が見られ、1986年宮崎駅近くの線路沿いの草地で帰化率を調査算出した結果35%であったが、その地点から200m離れた道路脇の草地では20%の値を示すにすぎなかった。このように乗り物と帰化植物の侵入及び分布との関係は密接で、セイトカアワダチソウは初め線路沿いに県下各地へと広が



路傍に野生化したシナダレスズメガヤ



線路沿いに各地へ広がったセイタカアワダチソウ

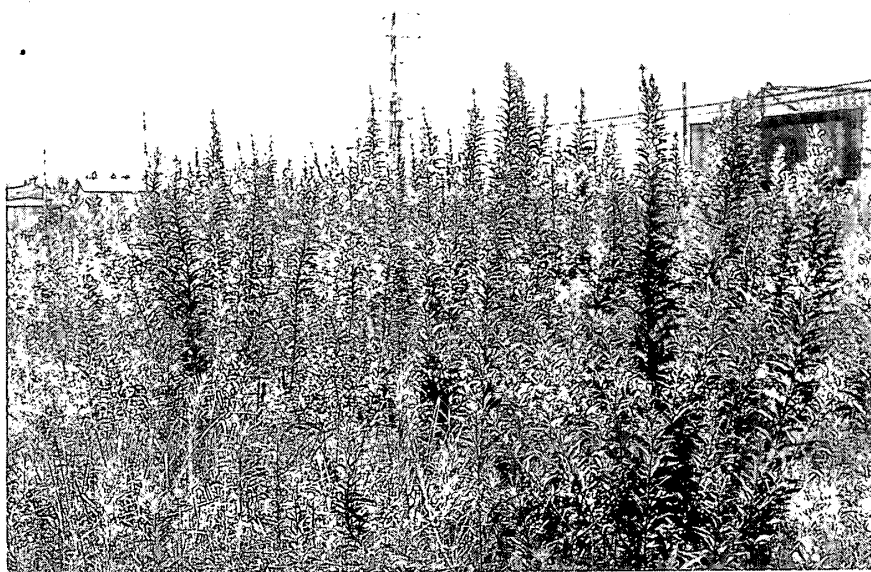
っていった。

次に農場や牧場付近で、外来の栽培植物や牧草が野生化したもののほか、それらの種子に交じって浸入した植物がある。例えばムラサキツメクサ・オートムギ・ミナトカラスムギ・ヒメカナリークサヨシなどがある。

荒地・空地や埋め立て造成地にはヒメムカシヨモギ・オオアレチノギク・セイタカタウコギ・ヒロハハウキギク・メマツヨイグサ・オオクサキビなど乾燥とアルカリ化に強い特有の帰化植物の侵入が見られ、これらが独特の群落を作る。



細島港に帰化したネビキミヤコグサ



空地に侵入したメマツヨイグサ

その他として、工場付近から初めヒナキキョウソウなどが採集されているが、宮崎県の場合このような場所を帰化センターとするものはまだ少ない。

2. 宮崎県内での帰化植物の分布状態

帰化植物が宮崎県内でどのような分布を示しているか、筆者が実地に採集記録したもの及び前

記所蔵標本の産地をもとにして、野生地点を押えてみた。その結果次の特徴的な A～D の 4 つの状態に分けて考えることができる。

A. ほとんど県内全域に分布しているもの、及び各地に広がりつつあるもの

現在ほとんど県内全域に分布しているものに、ホウキギク・セイタカタウコギ・コセンダングサ・キバナコスモス・ベニバナボロギク・ダンドボロギク・ヒメジョオン・アレチノギク・ヒメムカシヨモギ・ケナシヒメムカシヨモギ・ハキダメギク・チチコグサモドキ・セイタカアワダチソウ・オニノゲシ・ノゲシ・オナモミ・タチイヌノフグリ・オオイヌノフグリ・センナリホオズキ・アサガオ・マツバゼリ・コマツヨイグサ・コニシキソウ・ムラサキカタバミ・アメリカフウロ・ゲンゲ・シロツメクサ・マメグンバイナズナ・オランダガラシ・コハコベ・クルマバザクロソウ・アメリカヤマゴボウ・イヌビユ・ホナガイヌビユ・アカザ・ケアリタソウ・ニワゼキショウ・ホテイアオイ・ヒメコバンソウ・ジュズダマ・カモガヤ・コメヒシバ・ネズミムギ・ホソムギ・キシウスズメノヒエがあげられる。これらは県内に侵入後年数をかけて次第に分布域を広め、現在土着したものと考えられる。

このほか、ここ20年くらい以降に侵入して急速に県内に広がったものにヒロハホウキギク・オオアレチノギク・セイヨウタンポポ・オオオナモミ・メマツヨイグサ・オランダミミナグサ・ヒメマツバボタン・オシロイバナ・ヒメヒオオギズイセン・シナダレスズメガヤ・オニウシノケグサ・オオクサキビ・シマスズメノヒエ・アメリカスズメノヒエ・タチスズメノヒエ・セイバンモロコシがある。

これらの中には、林道や山岳地帯の伐採地まで入り込んでいるものもあるし、一方分布が人里近くで止まっているものもある。この種のは、一般に繁殖力が旺盛で、種子の生産・発芽・成長様式など植物自身に有利な特性を持ち、多くが全国的分布を示している。

次に県内各地に広がりつつあるものに、セイヨウノコギリソウ・オオブタクサ・シロノセンダ



山地伐採跡にも見られるベニバナボロギク



近年急激に県内に広がったタチスズメノヒエ

ングサ・オオキンケイギク・ハルシャギク・ヘラバヒメジョオン・ブタナ・キヌガサギク・キキョウソウ・ヘラオオバコ・ツクバネアサガオ・ワルナスビ・エゴマ・ヤナギハナガサ・アメリカネナシカズラ・マルバアサガオ・コメツブウマゴヤシ・コメツブツメクサ・ムラサキツメクサ・ショカツサイ・ムシトリナデシコ・オオツメクサ・ホソアオゲイトウ・コアカザ・シャクチリソバ・オオケタデ・ヒメスイバ・エゾノギシギシ・キシヨウブ・サフランモドキ・ノハカタカラクサ・クロコヌカグサ・メリケンカルカヤ・カラスムギ・コスズメガヤ・ムラサキナギナタガヤ・シラゲガヤ・オオアワガエリなどがあげられる。これらが全県下に分布域を拡大するのも時間の問題であろう。

なお、これらの植物の中には、セイヨウタンポポとシロバナタンポポ、オオイヌノフグリとイヌノフグリ、コニシキソウとニシキソウ、オランダミミナグサとミミナグサ、アメリカスズメノヒエとスズメノヒエのように、帰化植物と在来種との同属間の種間競争によって、在来種が次第に少なくなり、在来種と帰化植物との交替が見られるのものは興味深い。

B. 県内の所々に現われているもの

県内の所々、特に路傍や道路・河川工事跡などに現れるもので、前述の通り吹き付け種子や芝生、土砂などに混入して侵入するものと思われる。この型のものにブタクサ・カミツレモドキ・キンバイタウコギ・ハルジオン・タチチチコグサ・クイモ・ノボロギク・シオザキソウ・ヒナキキョウソウ・オオフタバムグラ・ヨウシュチョウセンアサガオ・タマサング・マルバアメリカアサガオ・マメアサガオ・ホシアサガオ・マツヨイグサ・オオニシキソウ・クスダマツメクサ・オハツキガラシ・ミヤガラシ・ノハラガラシ・グンバイナズナ・ホザキマンテマ・シロバナマンテマ・ツルノゲイトウ・ハリビユ・ナガバギシギシ・タカサゴユリ・コヌカグサ・ハルガヤ・イヌムギ・ローズソウ・イヌナギナタガヤ・ナギナタガヤ・ミノボロモドキ・カナリークサヨシ・ナガハグサなどがあげられる。この中には、限られた環境に土着して各地に散在するもの、特殊



窒素分の多い所などに散発的に現われるブタクサ

な環境の場所に散発的に現れるものなどが含まれているが、多くは現在の場所を中心に次第に分布域を拡大して、前記 A と同じようになるものと考えられる。

C. 山地や沿海地など限られた地域に分布しているもの

図 3 は、キンシバイとキンギンナスビの分布を示したものである。この図で、キンシバイは山間部だけに自生している。この型に属すると思われるものにミツマタ・シュウメイギクなどがある。いずれも中国原産で、かなり古い時代に渡来したものであるが、平地の海岸近くには野生化していない。

一方、キンギンナスビの分布を望めてみると、前者とまったく対照的で、海岸近くの平野部だけに分布している。この型のものにイガトキンソウ・ハシカグサモドキ・マルバルコウ・オオバナチョウセンアサガオ・アメリカキンゴジカ・シマニシキソウ・イモカタバミ・メキシコマンネングサ・オヒゲシバ・ヌカカゼグサなど熱帯原産のものがあげられる。やはり気候的条件が分布を制限しているものと思われる。しかし、熱帯原産のものでも本県の場合、コセンダングサ・センナリホオズキなどのようになかなか山間部まで入り込んでいるものもある。

なお、ハマダイコンは古い時代の帰化植物といわれるが、海岸の砂礫地や河口近くの河岸に自生している。

D. 分布が 1 地域か、極く少数地域に限られているもの

この中には、まだ採集記録が少なく、宮崎県での侵入初期段階にあるものや、いわゆる放浪植物も含まれるであろう。これに属するものにキゾメカミツレ（宮崎市）・クソニンジン（串間市）・ウスベニチチコグサ（高鍋町）・イヌカミツレ（宮崎市）・オオアザミ（日向市）・ノジシャ（宮崎市）・ニチナンオオバコ（日南市）・ツボミオオバコ（高岡町）・セイヨウヒキヨモギ（宮崎市・清

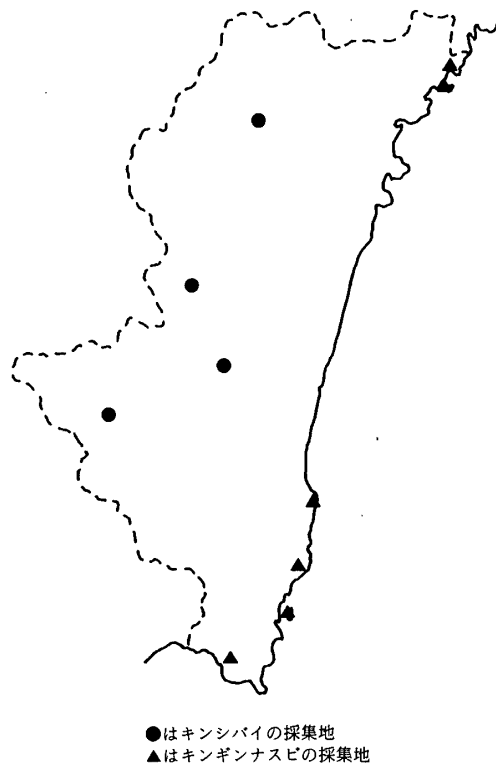


図3 キンシバイとキンギンナスビの分布



日向市に繁殖しているセイヨウヒルガオ

武町)・シロバナチョウセンアサガオ (日向市)・オランダハッカ (宮崎市)・イヌヒメコズチ (日向市)・セイヨウヒルガオ (日向市)・ツタマルバアサガオ (日向市)・アカバナリハコベ (日向市)・ホソバヒメミソハギ (日南市)・コゴメバオトギリ (宮崎市)・ゼニバアオイ (宮崎市)・ハイニシキソウ (日向市)・チャボタイゲキ (宮崎市)・フヨウカタバミ (宮崎市)・ヒュウガミヤコ

グサ (日向市)・ネビキミヤコグサ (日向市)・シロバナシナガワハギ (日向市)・ベニバナツメクサ (宮崎市)・ナヨクサフジ (高岡町)・オオヘビイチゴ (椎葉村)・ヒメアマナズナ (宮崎市)・カラクサガラシ (日向市)・クジラグサ (宮崎市)・ハタザオガラシ (日向市)・カキネガラシ (宮崎市)・モンツキヒナゲシ (宮崎市)・イヌコモチナデシコ (日之影町)・ヨツバハコベ (日向市)・オオシラタマソウ (宮崎市)・マンテマ (高鍋町)・ハイビユ (日向市)・ホナガアオゲイトウ (新富町)・アメリカアリタソウ (新富町)・ソバカズラ (日向市)・ツルドクダミ (串間市)・キバナニワゼキショウ (宮崎市)・ハナニラ (宮崎市)・ハタケニラ (宮崎市)・ハイコヌカグサ (延岡市)・ヌカススキ (宮崎市)・ミナトカラスムギ (宮崎市)・ニセコバンソウ (小林市)・カラスノチャヒキ (宮崎市)・ウマノチャヒキ (宮崎市)・メウマノチャヒキ (宮崎市)・タツノツメガヤ (日南市)・シコクビエ (日南市)・スズメガヤ (日向市)・ミナトムギクサ (宮崎市)・エダウチネズミムギ (宮崎市)・ボウムギ (都城市)・ドクムギ (宮崎市)・ギネアキビ (宮崎市)・ヒメカナリークサヨシ (宮崎市) などがあげられる。これらの多くは早晚他所でも採集されるであろう。

以上 A～D の 4 グループに分けて考えたが、これはあくまでも便宜的であって、いずれにも属しないものや、中間のものがあることは当然考えられる。なお、過去繁殖したもので、現在非常に分布域を狭めているものにフユアオイ・ハナカタバミ・ハウキギ・コバンソウなどがある。

3. 特記すべき帰化植物

(1) ニチナンオオバコ (イトバオオバコ)

Plantago heterophylla Nutt. オオバコ科 北米原産

1971年4月10日、日南市油津駅で黒木達夫により初めて見出され、長田武正博士によってイトバオオバコと命名された。然し、葉は必ずしも糸状でないので、筆者に諮られニチナンオオバコと改名²⁴⁾された。1年草で、葉は線形、長さ13cmに達する。花茎は8～17cm、穂状花序はまばらに花をつけ、萼は4個、花冠は深く4裂して裂片は長さ0.5mm。雄ずい2個。果実は長さ萼の2倍。花期は春。

(2) ヒュウガミヤコグサ (ケミヤコグサ)

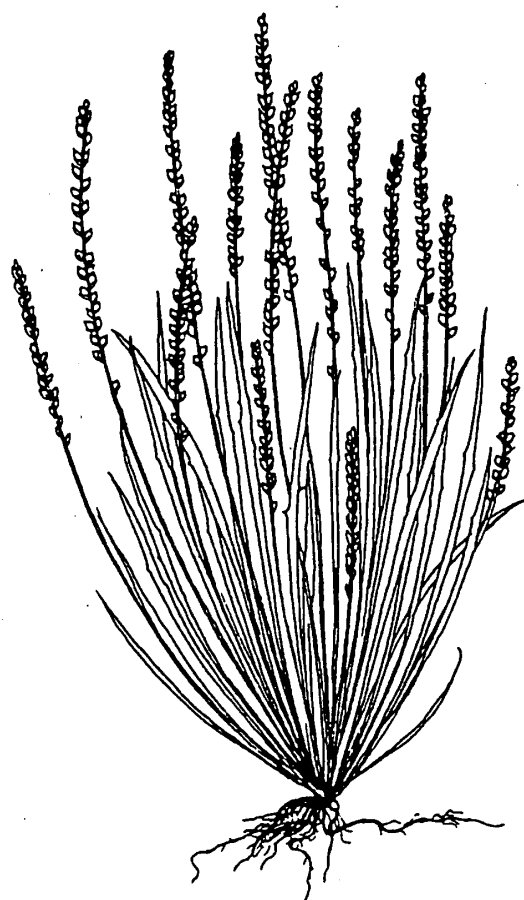
Lotus subbiflorus Lag. マメ科 欧州原産

1986年6月5日、日向市細島港近くの路傍に群生しているものを筆者が採集し、長田武正博士に同定を依頼した。筆者はヒュウガミヤコグサと命名して発表⁴⁾⁶⁾したが、平田正一博士はケミヤコグサとすることを提言された。細島港にヨーロッパから荷上げされた物資と共に移入した種子によって帰化したものと思われる。茎は叢生し、地面をはうか他物に巻きついて長さ70～100cm、葉と共に毛が多い。托葉は卵状だ円形、小葉は倒卵状だ円形で長さ7～18mm、幅8～3mm。花は長い柄の先に1～4個ずつ着き、黄赤色で長さ約8mm。萼は5深裂し、裂片は筒部より長い。果実は線形で長さ10mm前後。花期は春～夏。

(3) セイヨウヒキヨモギ

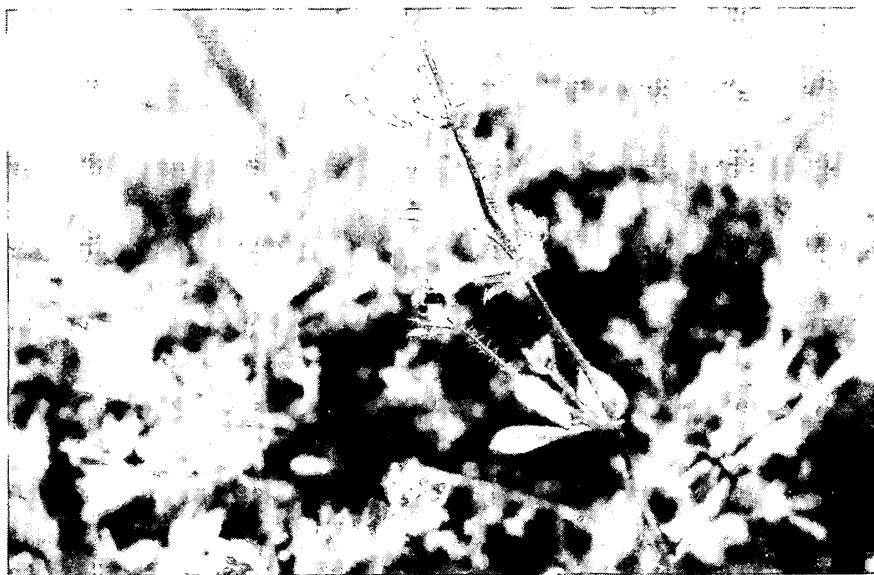
Parentucellia viscosa (L.) Caruel ゴマノハグサ科 地中海沿岸原産

1981年6月4日、筆者は宮崎市本郷南方木花バイパスの道路斜面で本種を採集⁶⁾し、更に1988年



(原色日本帰化植物図鑑より)

ニチナンオオバコ



ヒュウガミヤコグサ



セイヨウヒキヨモギ

宮崎郡清武町大字加納加納ハイランド内公園斜面と、翌1989年同団地内宅地造成地で採集した。本種は千葉県で1973年に発見され、後福岡県でも採られているが、いずれも消滅しているので、国内では宮崎県が現在唯一の発生地である。半寄生性で、おそらく張り付けられたシバと共に入ったのであろう。草丈は30cm前後、葉は互生し茎と共に毛が多い。花は初夏、茎頂近くに黄色で15~20mmの唇状花を開く。果実は球形で、中に多くの種子を作る。

(4) キバナニワゼキショウ

Sisyrinchium exile Bickn. アヤメ科 米南部原産

1987年4月21日、筆者は宮崎市昭和町宮崎女子高等学校運動場の芝生の中に、普通のニワゼキショウ (*S. atlanticum*) に混じって、小型で黄色い花のニワゼキショウ属の一種があることに気付いた。同年斉藤政美も大淀河畔において本種を採集したので、斉藤と語りオオヨドニワゼキショウとした。ところが、既にキバナニワゼキショウとして山口裕文が前年の1986年尼崎市に帰化したものについて命名し、発表³²⁾していた。茎は叢生し、高さ3~6cm。葉は線形で長さ2~4cm、幅1~2mm。花は経5~7mm。花被片の先は尖り上部から見ると星型、花被弁は黄色で脈に沿って赤紫色の筋が走る。花期は4~5月で、普通のニワゼキショウより早い。

4. 公害源としての帰化植物

宮崎県に産する帰化植物は、前述の通り現在260種類を数えることができる。その中には、牧草、食草、薬草として役立つものもある反面、害草と考えられるものも多い。とりわけ花粉病の原因となるものに、ブタクサ・オオブタクサ・カモガヤ・ヒメスイバ・ナガハグサ・オオアワガエリ・ネズミムギ・ホソムギ・オニウシノケグサなどがあり、特にブタクサ・オオブタクサは毎年のように小児喘息の原因として騒がれる。なお、欧米で一応花粉病の疑いのある植物として報告されているものにクソニンジン・セイタカアワダチソウ・オオアワダチソウ・オオオナモミ・



キバナニワゼキショウ

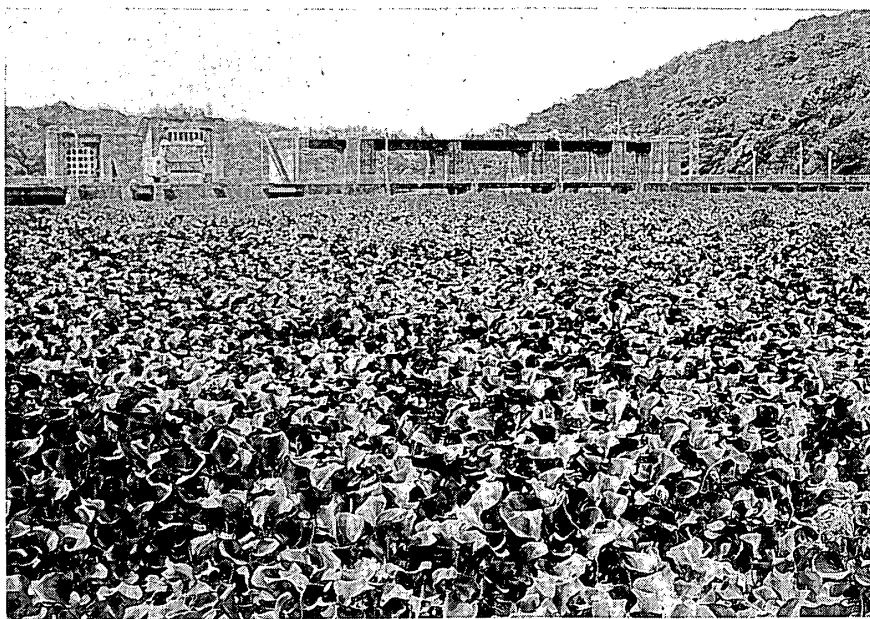
オナモミ・ヘラオオバコ・ホソアオゲイトウ・アオゲイトウ・ホナガアオゲイトウ・ホナガイヌビユ・ケアリタソウ・アカザ・コアカザ・イヌムギ・ムクゲチャヒキ・ウマノチャヒキ・メウマノチャヒキ・カラスムギ・ミナトカラスムギ・ハルガヤ・シラゲガヤ・コヌカグサ・クロコヌカグサ・ハイコヌカグサ・セイバンモロコシの25種類が宮崎県にも帰化している。

このほか、公害源と考えられる帰化植物には、家畜の害草としてのドクムギ・セイバンモロコシなどがあり、毒草として知られるキンギンナスビ・ヨウシュチョウセンアサガオ・ヨウシュヤマゴボウなどもある。また空地や路傍に繁殖して、美観を損ねるだけでなく、衛生的にも火災防止上も問題があるとされるヒメムカシモギ・オオアレチノギク・セイタカアワダチソウ・セイタカタウコギ・コセンダングサ・ヒロハハウキギク・オオオナモミ・メマツヨイグサ・オニウシノケグサ・タチスズメノヒエなどの大型雑草があり、これに加えてムラサキカタバミ・ワルナスビ・ハリビユなど除草困難で厄介な雑草が田畠に入り込んでいる。かつて、アメリカネナシカズラは都城地方や延岡市に繁殖して、作物を枯死させ減収をもたらした。またホテイアオイの大繁殖は、1974年高崎町轟ダムの20haの水面を被い、ダムに大損害を与えた。

これら公害源としての帰化植物は、開発による自然破壊と急激に進む都市化によって、年々その数量共に増加傾向にある。特に山野の裸地化と市街地を中心とした土壤の乾燥・アルカリ化は、セイタカタウコギやメマツヨイグサなどの大型害草の侵入を容易にしている。これらは、しばしば環境指標植物として注目されるもので、筆者が宮崎市の帰化率を調査した結果、社叢林に囲まれた宮崎神宮境内草地ではわずか12%を示すに過ぎなかったが、市周辺の村角町で21%、蓮ヶ池地区で28%、市中心街の高千穂2丁目に至っては41%の高数値を示した。また一方、大淀水系その他の河川の汚染は、オオブタクサなどの好窒素性害草やホテイアオイなど水生害草の繁殖を助長して社会問題にまで発展しつつある。



花粉病を起こす大型害草オオブタクサ



ダムに大繁殖した ホテアオイ

5. 宮崎県産帰化植物目録

この宮崎県産帰化植物目録は、1990年8月までに明らかになった42科、252種・7変種・1品種(260種類)について報告し、次の凡例によって記載した。

- 1) 史前帰化植物¹⁵⁾は、この目録から外した。ただし、ノゲシ・グンバイナズナ・クルマバザク
ロソウ・イヌビユ・コアカザ・コヌカグサ・カラスムギ・スズメガヤは、一般に帰化植物
として扱われるので残した。

- 2) ハリエンジュ・キササゲなどの大型木本及びタケ類は、植栽されたものか自生かの判断が難しいので除いた。
- 3) 標本が有ることを原則として収録し、例えばアメリカモウズイカのように自生を確認したものでも、標本の現存しないものは除外した。ただし、文献に出ているものは収録し、その旨記した。
- 4) 科の配列は、日本植物分類学会標準和名表の逆順、すなわちキク科に始まりトチカガミ科に終わるようにした。科内での属・種の配列はアルファベット順とした。
- 5) 学名の大部分は、原色日本帰化植物図鑑²⁴⁾、日本帰化植物図鑑²³⁾及び野草図鑑²⁵⁾から採った。
- 6) 栽培植物の逸出・野生化したものについては、生育地の環境の後に（野生化）と記した。
- 7) 分布の量を極普通・普通・やや普通・やや稀・稀・極稀の6段階で示した。これは全県的に見た量であって、産地での多少を表わすものではない。
- 8) 県内への帰化時期を推定するのに役立つので、最も古い標本の採集年を（ ）内に記した。
- 9) 原産地で、学者によって著しく見解が違ふものは、文献番号を付した。

Compositae キク科

1. *Achillea millefolium* L. セイヨウノコギリソウ
平地の路傍・草原 やや普通 (1969) 欧州原産
2. *Ageratum conyzoides* L. カッコウアザミ
平地の路傍 稀 (1959) 熱帯アメリカ原産
3. *Ambrosia artemisiaefolia* L. var. *elatior* (L.) Desc. ブタクサ
平地の荒地・路傍 やや稀 (1957) 北米原産
4. *Ambrosia trifida* L. オオブタクサ (クワモドキ)
平地の荒地・路傍・川原 やや普通 (1969) 北米原産
5. *Anthemis arvensis* L. キゾメカミツレ
平地の路傍 極稀 (1981) 地中海沿岸原産
6. *Anthemis cotula* L. カミツレモドキ
平地の路傍・線路脇 やや稀 (1968) 欧州原産
7. *Artemisia annua* L. クソニンジン
海岸砂地 極稀 (1979) アジア～東欧州原産
8. *Aster subulatus* Michx. ホウキギク
平地の路傍・荒地・川原・畦畔 普通 (1958) 北米原産
9. *Aster* sp. ヒロハホウキギク
平地の路傍・荒地・川原・畦畔 極普通 (1971) 北米原産
10. *Bidens aurea* (Ait.) Sherff キンバイタウコギ
平地の路傍・荒地・川原 稀 (1971) 中米原産
11. *Bidens bipinnata* L. コバノセンダングサ
平地の路傍 稀 (1959) 熱帯アメリカ原産

12. *Bidens frondosa* L. セイタカタウコギ (アメリカセンダングサ)
平地の路傍・荒地 極普通 (1961) 北米原産
13. *Bidens pilosa* L. コセンダングサ
平地の路傍・荒地, 山野の路傍 普通 (1971) 熱帯原産
- 13' ——— var. *minor* (Blume) Sherff シロノセンダングサ (シロバナセンダングサ)
平地の路傍・荒地 やや普通 (1971) 熱帯原産
14. *Carduus crispus* L. ヒレアザミ
平地の路傍, 山地の林縁 稀 (1958) 欧亜大陸原産
15. *Centaurea solstitialis* L. イガヤグルマギク
平地の路傍 極稀 (1974) 地中海沿岸原産
16. *Coreopsis lanceolata* L. オオキンケイギク
平地の路傍・荒地・川原・堤防 (野生化) やや普通 (1972) 北米原産
17. *Coreopsis tinctoria* Nutt. ハルシャギク (ジャノメギク)
平地の路傍・荒地・川原 (野生化) やや普通 (1972) 北米原産
18. *Cosmos sulphureus* Cav. キバナコスモス
平地の路傍・荒地 (野生化) 普通 (1972) メキシコ原産
19. *Cotula australis* (Sieber) Hook. f. マメカミツレ
平地の路傍・線路脇 稀 (1971) オーストラリア原産
20. *Crassocephalum crepidioides* (Benth.) S. Moore ベニバナボクギク
平地の路傍・荒地, 山野の路傍, 山地の伐採跡 極普通 (1951) アフリカ原産
21. *Erechtites hieracifolia* (L.) Raf. ダンドボロギク
平地の路傍・荒地, 山野の路傍, 山地の伐採跡 普通 (1958) 北米原産
22. *Erigeron annuus* (L.) Pers. ヒメジョオン
平地の路傍・荒地・堤防, 山野の路傍 極普通 (1937) 北米原産
23. *Erigeron bonariensis* L. アレチノギク
平地の路傍・荒地 普通 (1934) 南米原産
24. *Erigeron canadensis* L. ヒメムカシヨモギ
平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1929) 北米原産
25. *Erigeron philadelphicus* L. ハルジオン (ハルジョオン)
平地の路傍・畑地 やや稀 (1973) 北米原産
26. *Erigeron pusillus* Nutt. ケナシヒメムカシヨモギ
平地の路傍・荒地・畑地 普通 (1968) 北米原産
27. *Erigeron strigosus* Muhl. ヘラバヒメジョオン
平地の路傍・荒地・堤防, 丘陵 やや普通 (1966) 北米原産
28. *Erigeron sumatrensis* Retz. オオアレチノギク
平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1971) 南米原産
29. *Galinsoga ciliata* (Raf.) Blake ハキダメギク
平地の路傍・畑地 普通 (1953) 熱帯アメリカ原産

30. *Gnaphalium calviceps* Fern. タチチチコグサ
平地の路傍・荒地・堤防 やや稀 (1973) 米大陸原産
31. *Gnaphalium pensylvanicum* Willd. チチコグサモドキ
平地の路傍・畑地・庭地 極普通 (1954) 北米原産²⁵⁾
32. *Gnaphalium purpurenm* L. ウスベニチチコグサ
平地の川原 極稀 (1987) 北米原産?
33. *Helianthus debilis* Nutt. ヒメヒマワリ
平地の路傍・荒地(野生化) 稀 (1973) 北米原産
34. *Helianthus tuberosus* L. キクイモ
平地の路傍・荒地(野生化) やや稀 (1973) 北米原産
35. *Hypochoeris radicata* L. ブタナ
平地の路傍・荒地・堤防, 山野の路傍 やや普通 (1973) 欧州原産
36. *Matricaria chamomilla* L. カミツレ
平地の路傍(野生化) 稀 (1974) 欧州～西アジア原産
37. *Matricaria inodora* L. イヌカミツレ
平地の路傍(野生化) 極稀 (1974) 欧州原産
38. *Rudbeckia hirta* L. キヌガサギク(アラゲハンゴンソウ)
平地の路傍, 丘陵, 山野の路傍 やや普通 (1969) 北米原産
39. *Senecio vulgaris* L. ノボロギク
平地の路傍・荒地・畑地 やや稀 (1926) 欧州原産
40. *Silybum marianum* Gaert. オオアザミ(マリアアザミ)
平地の荒地(野生化) 極稀 (1982) 欧州原産
41. *Solidago altissima* L. セイタカアワダチソウ
平地の路傍・荒地・堤防・川原・線路脇 極普通 (1969) 北米原産
42. *Solidago gigantea* Ait. var. *leiophylla* Fern. オオアワダチソウ
平地の路傍・荒地(野生化) やや普通 (1929) 北米原産
43. *Soliva anthemifolia* (Juss.) R. Br. イガトキンソウ(シマトキンソウ)
平地の路傍・畑地・庭地 普通 (1947) 南米原産
44. *Sonchus asper* (L.) Hill オニノゲシ
平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1947) 欧州原産
45. *Sonchus oleracus* L. ノゲシ(ハルノノゲシ)
平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1936) 欧州原産
46. *Tagetes minuta* L. シオザキソウ(コゴメコウオウソウ)
平地の路傍・荒地 やや稀 (1975) 南米原産
47. *Taraxacum officinale* Weber セイヨウタンポポ
平地の路傍・荒地・堤防・庭地 普通 (1971) 欧州原産
48. *Xanthium canadense* Mill. オオオナモミ
平地の路傍・荒地・川原・畦畔 極普通 (1973) 北米原産

49. *Xanthium strumarium* L. オナモミ
平地の路傍・荒地・川原 普通 (1937) アジア大陸原産

Campanulaceae キキョウ科

50. *Specularia biflora* (R. et P.) Fisch. et Mey. ヒナキキョウソウ (ヒメダンダンギキョウ)
平地の路傍・荒地・川原 やや稀 (1965) 北米原産
51. *Specularia perfoliata* (L.) A. DC. キキョウソウ (ダンダンキキョウ)
平地の路傍・堤防・庭地・ゴルフ場 やや普通 (1969) 北米原産

Valerianaceae オミナエシ科

52. *Valerianella olitoria* (L.) Poll. ノジシャ
平地の路傍・畑地 極稀 (1947) 欧州原産

Rubiaceae アカネ科

53. *Diodia teres* Walt. オオフトバムグラ (タチフトバムグラ)
海浜砂地・林下, 平地の荒地・線路脇 やや稀 (1958) 北米原産
54. *Diodia virginiana* L. メリケンムグラ
平地の堤防・川原 極稀 (1975) 北米原産
55. *Richardia scabra* L. ハシカグサモドキ
平地の路傍・荒地・畑地 稀 (1964) 熱帯アメリカ原産²³⁾

Plantaginaceae オオバコ科

56. *Plantago heterophylla* Nutt. ニチナンオオバコ (イトバオオバコ)
平地の線路脇 極稀 (1971) 北米原産
57. *Plantago lanceolata* L. ヘラオオバコ (オオヘラオオバコを含む)
平地の路傍・荒地・堤防 やや普通 (1949) 欧州原産
58. *Plantago virginica* L. ツボミオオバコ
平地の路傍 極稀 (1987) 北米原産

Scrophulariaceae ゴマノハグサ科

59. *Parentucellia viscosa* (L.) Caruel セイヨウヒキヨモギ
平地の路傍・造成地 極稀 (1981) 地中海沿岸原産
60. *Veronica arvensis* L. タチイヌノフグリ
平地の路傍・荒地・堤防・畑地 普通 (1947) 欧州大陸～アフリカ大陸原産²⁴⁾
61. *Veronica persica* Poir. オオイヌノフグリ
平地の路傍・畑地・畦畔 極普通 (1947) 西アジア～欧州原産²⁵⁾

Solanaceae ナス科

62. *Datura stramonium* L. シロバナチョウセンアサガオ
平地の荒地 極稀 (1983) 熱帯アメリカ原産
- 62' ——— var. *chalybea* Koch ヨウシュチョウセンアサガオ
平地の路傍・荒地・鉄道線路脇 やや稀 (1974) 熱帯アメリカ原産
63. *Datura suaveolens* Humb. et Bonpl. ex Willd. オオバナチョウセンアサガオ (キダ
チチョウセンアサガオ)
平地の路傍 (野生化) やや稀 (1987) 熱帯アメリカ原産³⁰⁾
64. *Nicandra physalodes* (L.) Pers. オオセンナリ
平地の路傍・荒地 稀 (1974) 南米原産
65. *Petunia hybrida* Vilm. ツクバネアサガオ (ペチュニア)
平地の路傍・荒地 (野生化) 普通 (1974) 南米原産
66. *Physalis angulata* L. センナリホオズキ
平地の路傍・畑地 普通 (1952) 熱帯アメリカ原産
67. *Solanum carolinense* L. ワルナスビ (ノハラナスビ, オニナスビ)
平地の路傍・荒地 やや普通 (1966) 北米原産
68. *Solanum ciliatum* Lam. キンギンナスビ (ニシキハリナスビ)
海浜の砂礫地・路傍 稀 (1937) 熱帯アメリカ原産
69. *Solanum integrifolium* Poir. ヒラナス (カザリナス)
平地の路傍・荒地 (野生化) 極稀 アフリカ原産
70. *Solanum pseudo-capsicum* L. タマサング (フユサング)
平地の路傍 (野生化) 稀 (1957) ブラジル原産

Labiatae シソ科

71. *Ajuga reptans* L. ツルジュウニヒトエ (セイヨウジュウニヒトエ)
平地の路傍・草地 (野生化) 極稀 (1984) 熱帯アメリカ原産
72. *Mentha spicata* L. var. *crispa* Benth. オランダハッカ
平地の荒地 極稀 (1974) 欧州原産
73. *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *japonica* (Hassk.) Hara エゴマ
平地の路傍・荒地 (野生化) やや普通 (1974) 東南アジア原産
74. *Salvia reflexa* Hornem. イヌヒメコズチ
平地の荒地 極稀 (1971) 中・北米原産

Verbenaceae クマツヅラ科

75. *Verbena bonariensis* L. ヤナギハナガサ (サンジャクバーベナ)
平地の路傍・荒地・川原 やや普通 (1973) 南米原産
76. *Verbena brasiliensis* Vell. アレチハナガサ

平地の路傍・荒地 稀 (1983) 南米原産

Convolvulaceae ヒルガオ科

77. *Convolvulus arvensis* L. セイヨウヒルガオ (ヒメヒルガオ)
平地の線路脇 極稀 (1974) 欧州原産
78. *Cuscuta pentagona* Engelm. アメリカネナシカズラ
海浜の草原, 平地の荒地・畑地 やや普通 (1977) 北米原産
79. *Ipomoea coccinea* L. マルバルコウ (ルコウアサガオ)
平地の路傍・草地 (野生化) 稀 (1974) 熱帯アメリカ原産
80. *Ipomoea hederacea* (L.) Jacq. アメリカアサガオ
平地の荒地 極稀 (1972) 熱帯アメリカ原産²⁴⁾
- 80' ——— var. *integriuscula* A. Gray マルバアメリカアサガオ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1972) 北米原産
81. *Ipomoea lacunosa* L. マメアサガオ (ヒメアサガオ)
平地の路傍・荒地 やや稀 (1969) 北米原産
82. *Ipomoea nil* Roth アサガオ
平地の路傍・荒地・堤防 (野生化) 極普通 ヒマラヤ地方原産²⁴⁾
83. *Ipomoea purpurea* (L.) Roth マルバアサガオ
平地の路傍・荒地 (野生化) やや普通 (1935) 熱帯アメリカ原産
- 83' ——— var. *diversifolia* (Lindl.) O'Don ツタマルバアサガオ
平地の路傍 極稀 (1986) 北米原産?
84. *Ipomoea sloteri* (Niewl.) モミジルコウ (ハゴロモルコウ)
平地の路傍・荒地 (野生化) 稀 (1972) 北米原産¹¹⁾
85. *Ipomoea trilobo* L. ホシアサガオ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1973) 南米原産²⁴⁾

Primulaceae サクラソウ科

86. *Anagallis arvensis* L. アカバナリハコベ (ベニバナリハコベ)
平地の荒地 極稀 (1980) 熱帯～温帯原産

Umbelliferae セリ科

87. *Apium leptophyllum* (Pers.) F. Muell マツバゼリ
平地の路傍・荒地・庭地 極普通 (1954) 熱帯アメリカ原産
88. *Daucus carota* L. ノラニンジン
平地の路傍・荒地 稀 (1957) 欧州原産

Araliaceae ウコギ科

89. *Tetrapanax papyriferus* (Hook.) K. Koch カミヤツデ (ツウダツボク)

平地の路傍, 海岸林内・林縁 (野生化) 稀 (1985) 中国原産

Oenotheraceae アカバナ科

90. *Oenothera biennis* agg. メマツヨイグサ (アレチマツヨイグサを含む)
平地の路傍・荒地・畑地・堤防 極普通 (1969) 北米原産
91. *Oenothera erythrosepala* Borbas オオマツヨイグサ
平地の路傍・荒地・堤防, 丘陵草原 (野生化) やや普通 (1952) 北米原産
92. *Oenothera laciniata* Hill コマツヨイグサ
海浜砂地, 平地の路傍・荒地・川原 普通 (1954) 北米原産
93. *Oenothera stricta* Ledeb. ex Link マツヨイグサ
平地の路傍・荒地 (野生化) やや稀 (1970) 南米原産

Lythraceae ミソハギ科

94. *Ammannia coccinea* Rottb. ホソバヒメミソハギ
平地の水田 極稀 (1975) 米大陸原産²⁴⁾

Thymelaeaceae ジンチョウゲ科

95. *Edgeworthia chrysantha* Lindley ミツマタ
山地林内・林縁 (野生化) 稀 (1984) 中国原産

Guttiferae オトギリソウ科

96. *Hypericum patulalm* Thumb. キンシバイ
山足林縁 (野生化) 稀 (1950) 中国原産
97. *Hypericum perforatum* L. var. *angustifolium* DC. コゴメバオトギリ
平地の庭地 極稀 (1949) 欧州原産

Malvaceae アオイ科

98. *Abutilon theophrasti* Medicus イチビ (キリアサ・ゴサイバ)
平地の路傍・荒地 (野生化) 稀 (1931) インド原産
99. *Malva neglecta* Wallr. ゼニバアオイ
平地の路傍 極稀 (1974) 欧亜大陸原産
100. *Malva verticillata* L. フユアオイ
海浜の砂地 極稀 (1948) アジア東部原産²³⁾
101. *Sida rhombifolia* L. キンゴジカ
平地の荒地 稀 (1971) 熱帯原産
102. *Sida spinosa* L. アメリカキンゴジカ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1958) 熱帯アメリカ原産²⁴⁾

Euphorbiaceae トウダイグサ科

103. *Euphorbia chamaesyce* L. ハイニシキソウ
平地の線路脇 極稀 (1982) 熱帯アメリカ原産
104. *Euphorbia hirta* L. シマニシキソウ (タイワンニシキソウ)
海浜の砂地, 平地の路傍・畑地 やや稀 (1973) 熱帯アメリカ原産
105. *Euphorbia maculata* L. オオニシキソウ
平地の路傍・荒地・線路脇 やや稀 (1952) 北米原産
106. *Euphorbia pepulus* L. チャボタイゲキ
平地の路傍 極稀 (1982) 地中海沿岸原産
107. *Euphorbia supina* Rafin. コニシキソウ
平地の路傍・荒地・畑地・庭地 極普通 (1937) 北米原産

Oxalidaceae カタバミ科

108. *Oxalis articulata* Savigny イモカタバミ (フシネハナカタバミ)
平地の路傍・堤防 稀 (1974) 南米原産
109. *Oxalis bowiei* Lindl. ハナカタバミ
平地の路傍 (野生化) 極稀 (1937) 南アフリカ原産
110. *Oxalis corymbosa* DC. ムラサキカタバミ (キキョウカタバミ)
平地の路傍・荒地・庭地・畑地 極普通 (1952) 南米原産
111. *Oxalis variabilis* Jacq. フヨウカタバミ
平地の路傍・荒地 (野生化) 極稀 (1980) 南アフリカ原産

Geraniaceae フウロソウ科

112. *Geranium carolinianum* L. アメリカフウロ
平地の路傍・荒地・畑地・水田 極普通 (1961) 北米原産

Leguminosae マメ科

113. *Aeschynomene virginica* (L.) BSP. アメリカクサネム
平地の路傍・荒地・田間・畦畔 やや普通 (1972) 北米原産
114. *Amorpha fruticosa* L. イタチハギ (クロバナエンジュ・ロシヤハギ)
平地の林縁 稀 (1974) 北米原産
115. *Astragalus sinicus* L. ゲンゲ (レンゲソウ・ゲンゲバナ)
平地の路傍・畦畔・水田 (野生化) 極普通 (1939) 中国原産
116. *Lotus subbiflorus* Lag. ヒュウガミヤコグサ (ケミヤコグサ)
平地の路傍 極稀 (1980) 欧州原産
117. *Lotus uliginosus* Schkuhr ネビキミヤコグサ
平地の路傍・荒地 極稀 (1980) 欧州～アフリカ原産

118. *Medicago lupulina* L. コメツブウマゴヤシ
平地の路傍・荒地・線路脇・草地 やや普通 (1956) 欧州原産
119. *Medicago polymorpha* L. ウマゴヤシ
平地の路傍・草原 極稀 (1976) 欧州原産
120. *Medicago sativa* L. ムラサキウマゴヤシ
平地の路傍(野生化) 稀 (1980) 地中海沿岸原産
121. *Melilotus albe* Medicus シロバナシナガワハギ(コゴメハギ)
平地の路傍 極稀 (1980) 中央アジア原産
122. *Melilotus indica* (L.) All. コシナガワハギ
平地の路傍 極稀 (1954) 欧亜大陸原産
123. *Melilotus suaveolens* Ledeb. シナガワハギ(エビラハギ)
平地の路傍 極稀 (1980) 東アジア原産
124. *Trifolium campestre* Schreb. クスダマツメクサ(ホップツメクサ)
平地の路傍・草地 稀 (1971) 欧州原産
125. *Trifolium dubium* Sibth. コメツブツメクサ(キバナツメクサ)
平地の路傍・荒地・草地 やや普通 (1972) 欧州～西アジア原産
126. *Trifolium incarnotum* L. ベニバナツメクサ
平地の路傍(野生化) 極稀 (1973) 欧州～西アジア原産
127. *Trifolium pratens* L. ムラサキツメクサ(アカツメクサ)
平地の路傍, 山野の路傍・草地(野生化) やや普通 (1931) 欧州原産
128. *Trifolium repens* L. シロツメクサ(オランダウマゴヤシ・オランダゲンゲ)
平地の路傍・荒地・草地・庭地(野生化) 極普通 (1937) 欧州原産
129. *Vicia dasycarpa* Tenore ナヨクサフジ
平地の路傍 極稀 (1977) 欧州原産

Rosaceae バラ科

130. *Potentilla recta* L. オオヘビイチゴ(タチロウゲ・オオロウゲ)
平地の路傍・草地 極稀 (1969) 欧州原産

Crassulaceae ベンケイソウ科

131. *Sedum mexicanum* Britt. メキシコマンネングサ
平地の路傍(野生化) やや稀 (1982) メキシコ原産

Cruciferae アブラナ科

132. *Camelina microcarpa* Ardrz. ex DC. ヒメアマナズナ(ヒメタマナズナ)
平地の路傍 極稀 (1974) 欧州原産
133. *Coronopus didymus* (L.) Smith カラクサガラシ(インチンナズナ・カラクサナズナ)
平地の路傍 極稀 (1965) 欧州原産

134. *Descurainia sophia* (L.) Webb ex Prantl クジラグサ
平地の路傍 極稀 (1974) 欧亜大陸原産
135. *Erucastrum gallicum* (Willd.) O. E. Schulz オハツキガラシ
平地の路傍, 山野の路傍 稀 (1974) 欧州原産
136. *Lepidium virginicum* L. マメグンバイナズナ (セイヨウグンバイナズナ・コウベナズナ)
平地の路傍・荒地 普通 (1952) 北米原産
137. *Nasturtium officinale* R. Br. オランダガラシ (ミズカラシ)
平地の溝辺・河辺, 低山地の溪流辺 (野生化) 普通 (1952) 欧州原産
138. *Orychophragmus violaceus* O. E. Schulz ショカツサイ (シキンソウ・オオアラセイトウ)
平地の路傍・庭地 (野生化) やや普通 (1975) 中国原産
139. *Raphanus raphanistrum* L. セイヨウノダイコン
平地の路傍・荒地 極稀 (1976) 欧亜大陸原産
140. *Raphanus sativus* L. var. *acanthiformis* Mak. f. *raphanistroides* Mak. ハマダイコン
海浜の砂礫地, 平地の河岸 普通 (1937) 欧州原産
141. *Rapistrum rugosum* (L.) All. ミヤガラシ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1975) 欧州原産
142. *Sinapis arvensis* L. ノハラガラシ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1974) 欧州原産
143. *Sisymbrium altissimum* L. ハタザオガラシ
平地の荒地 極稀 (1976) 欧州原産
144. *Sisymbrium officinale* (L.) Scop. カキネガラシ
平地の路傍 極稀 (1981) 欧州原産
145. *Sisymbrium orientale* L. イヌカキネガラシ
平地の路傍・荒地 極稀 (1971) 地中海地方原産²⁴⁾
146. *Thlaspi arvense* L. グンバイナズナ
平地の路傍・荒地 やや稀 (1957) 欧州原産

Papaveraceae ケシ科

147. *Papaver commutatum* Fisch. et Mey. モンツキヒナゲシ
平地の路傍 (野生化) 極稀 (1974) 欧州東部～小アジア原産
148. *Papaver rhoeas* L. ヒナゲシ
平地の路傍 (野生化) 極稀 (1974) 欧州原産

Ranunculaceae キンポウゲ科

149. *Anemone hupehensis* Lem. var. *japonica* (Thumb.) Bowles et Stearn シュウメイギク (ギブネギク)

山野の路傍・林縁 やや普通 (1930) 中国原産

Caryophyllaceae ナデシコ科

150. *Cerastium glomeratum* Thuill. オランダミミナグサ (アオミミナグサ)
平地の路傍・畑地・庭地 極普通 (1972) 欧州原産
151. *Dianthus armeria* L. ノハラナデシコ
平地の路傍 極稀 (1971) 欧州原産
152. *Petrorhagia nanteuilii* (Burnat) P. W. Ball et Heywood イヌコモチナデシコ
平地の路傍 極稀 (1981) 欧州原産
153. *Petrorhagia prolifera* (L.) P. W. Ball et Heywood コモチナデシコ
平地の路傍 極稀 (1975) 欧州原産
154. *Polycarpon tetraphyllum* (L.) L. ヨツバハコベ
平地の路傍・線路脇 極稀 (1972) 欧州原産¹⁹⁾
155. *Silene armeria* L. ムシトリナデシコ (ハイトリナデシコ)
平地の路傍・荒地 (野生化) やや普通 (1975) 欧州原産
156. *Silene conoidea* L. オオシラタマソウ
平地の路傍 極稀 (1974) 欧州南部～西アジア原産²⁴⁾
157. *Silene dichotoma* Ehrh. ホザキマンテマ (マンテマモドキ・フタマタマンテマ)
平地の路傍・荒地 やや稀 (1970) 欧州原産
158. *Silene gallica* L. シロバナマンテマ
平地の路傍・荒地 稀 (1972) 欧州原産
- 158' ——— var. *quinguevulnera* (L.) Koch マンテマ
海浜砂地 極稀 (1977) 欧州原産
159. *Spergula arveasis* L. var. *sativa* (Boenn.) Koch オオツメクサ (ノハラツメクサを含む)
平地の路傍・荒地・畑地・庭地 やや普通 (1952) 欧州原産
160. *Stellaria media* (L.) Villars コハコベ
平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1947) 欧州原産

Portulacaceae スベリヒユ科

161. *Portulaca pilosa* L. ヒメマツバボタン (ケツメクサ)
平地の路傍・荒地・庭地 普通 (1972) 熱帯アメリカ原産

Aizoaceae ザクロソウ科

162. *Mollugo verticillata* L. クルマバザクロソウ
平地の路傍・荒地・畑地・庭地 普通 (1969) 熱帯アメリカ原産

Phytolaccaceae ヤマゴボウ科

163. *Phytolacca americana* L. アメリカヤマゴボウ (ヨウシュヤマゴボウ)
 平地の荒地・路傍, 山野林縁 普通 (1947) 北米原産

Nyctaginaceae オシロイバナ科

164. *Mirabilis jalapa* L. オシロイバナ
 平地の路傍・荒地 (野生化) 普通 (1971) 熱帯アメリカ原産

Amaranthaceae ヒユ科

165. *Alternanthera nodiflora* R. Br. オソバツルノゲイトウ
 平地の荒地・池溝辺・水田 やや普通 (1958) 南米原産¹¹⁾¹⁹⁾
166. *Alternanthera sessilis* (L.) DC. ツルノゲイトウ (ホシノゲイトウ)
 平地の荒地・水田・川原・溝辺 やや稀 (1948) 熱帯原産
167. *Amaranthus deflexus* L. ハイビユ
 平地の線路脇 極稀 (1970) 欧州原産
168. *Amaranthus hybridus* L. ホナガアオゲイトウ
 平地の路傍 極稀 (1974) 熱帯アメリカ原産
169. *Amaranthus lividus* L. イヌビユ
 平地の路傍・荒地・畑地・庭地 極普通 (1937) 欧州原産
170. *Amaranthus mangostanus* L. ヒユ
 平地の畑地 (野生化) 極稀 (1948) インド原産
171. *Amaranthus paniculatus* L. スギモリゲイトウ
 平地の路傍・荒地 稀 (1972) 熱帯原産¹⁴⁾²⁹⁾
172. *Amaranthus patulus* Bertol. ホソアオゲイトウ
 平地の路傍・荒地・畑地 やや普通 (1958) 南米原産²⁴⁾
173. *Amaranthus retroflexus* L. アオゲイトウ
 平地の路傍・荒地 極稀 (1974) 北米原産²⁴⁾²⁹⁾
174. *Amaranthus spinosus* L. ハリビユ (ハリイヌビユ)
 平地の路傍・荒地・牧野 やや稀 (1948) 熱帯アメリカ原産
175. *Amaranthus viridis* L. ホナガイヌビユ (アオビユ)
 平地の路傍・荒地・畑地 普通 (1958) 熱帯アメリカ原産
176. *Celosia argentea* L. ノゲイトウ
 平地の路傍・荒地・川原 やや普通 (1934) 熱帯アメリカ原産

Chenopodiaceae アカザ科

177. *Chenopodium album* L. var. *centrorubrum* Mak. アカザ
 平地の路傍・荒地・畑地 極普通 (1937) 中国原産

178. *Chenopodium ambrosioides* L. ケアリタソウ (無毛品を含む)
 平地の路傍・荒地 普通 (1957) 南米原産
- 178' ———— var. *anthelminticum* (L.) A. Gray アメリカアリタソウ
 平地の路傍 極稀 (1974) 熱帯アメリカ原産
179. *Chenopodium ficifolium* Smith コアカザ
 平地の路傍・荒地・川原 やや普通 (1952) 欧亜大陸原産
180. *Kochia scoparis* (L.) Schrad. ホウキギ (ニワクサ)
 平地の路傍・荒地 極稀 (1937) 欧亜大陸原産

Polygonaceae タデ科

181. *Fagopyrum cymosum* Meisn. シャクチリソバ (ヒマラヤソバ・シュツコンソバ)
 平地の路傍・荒地・畑地 (野生化) やや普通 (1973) インド北部～中国原産
182. *Polygonum convolvulus* L. ソバカズラ
 平地の草地・線路脇 極稀 (1976) 欧州・西アジア原産
183. *Polygonum multiflorum* Thunb. ツルドクダミ
 海浜砂礫地 (野生化) 極稀 (1976) 中国原産
184. *Polygonum orientale* L. オオケタデ
 平地の路傍・荒地 (野生化) やや普通 (1969) インド・マレーシア原産
185. *Rumex acetosella* L. ヒメスイバ
 平地の路傍・荒地, 山野の路傍 やや普通 (1937) 欧州原産
186. *Rumex conglomeratus* Murr. アレチギシギシ
 平地の路傍・荒地 稀 (1977) 欧亜大陸原産
187. *Rumex crispus* L. ナガバギシギシ
 平地の路傍・荒地 やや稀 (1975) 欧州原産
188. *Rumex obtusifolius* L. エゾノギシギシ (ヒロハギシギシ)
 平地の路傍・荒地 やや普通 (1968) 欧亜大陸原産

Iridaceae アヤメ科

189. *Iris pseudoacorus* L. キショウブ
 平地の池・溝 (野生化) やや普通 (1972) 欧州原産
190. *Sisyrinchium atlanticum* Bickn. ニワゼキショウ
 平地の路傍・草地・庭地・堤防 極普通 (1936) 北米原産
191. *Sisyrinchium exile* Bickn. キバナニワゼキショウ
 平地の草地・堤防 極稀 (1987) 米南部原産³¹⁾
192. *Tritonia crocosmaeflora* Lemoine ヒメヒオオギズイセン
 平地の路傍・荒地, 海浜林縁, 低山林縁 (野生化) 普通 (1972) 欧州原産

Amaryllidaceae ヒガンバナ科

193. *Lycoris squamigera* Maxim. ナツズイセン
平地の土手, 低山地の山足 (野生化) 極稀 (1976) 中国原産
194. *Zephyranthes grandiflora* Lindl. サフランモドキ
平地の路傍・畦畔 (野生化) やや普通 (1975) 西インド・メキシコ原産¹⁶⁾²⁴⁾

Liliaceae ユリ科

195. *Brodiaea uniflora* Engler ハナニラ (セイヨウアマナ)
平地の庭地・草地 (野生化) 極稀 (1945) 南米原産
196. *Lilium formosanum* Wallace タカサゴユリ
平地の路傍, 低山地の山足 (野生化) やや稀 (1973) 台湾原産
197. *Nothoscordum fragrans* Kunth ハタケニラ (ニラモドキ)
平地の庭地・草地 極稀 (1967) 北米原産

Pontederiaceae ミズアオイ科

198. *Eichhornia crassipes* Solms-Laub. ホテイアオイ
平地の池・溝, 河川 (野生化) 普通 (1937) 熱帯アメリカ原産

Commelinaceae ツユクサ科

199. *Tradescantia flumiensis* Vell. ノハカタカラクサ (トキワツユクサ)
平地の路傍・林縁, 低山地の路傍・林縁 普通 (1971) 南米原産

Gramineae イネ科

200. *Agrostis alba* L. コヌカグサ
平地の路傍, 山野の路傍・草地 やや稀 (1953) 欧州・米国原産¹¹⁾
201. *Agrostis nigra* With. クロコヌカグサ
平地の路傍, 山野の路傍・草地 やや普通 (1974) 北半球の温帯亜寒帯²⁰⁾
202. *Agrostis stolonifera* L. ハイコヌカグサ
山野の路傍 極稀 (1949) 欧州・米国原産¹¹⁾¹⁴⁾
203. *Aira caryophyllea* L. ヌカススキ
平地の路傍 極稀 (1974) 欧州原産¹⁶⁾²³⁾
204. *Andropogon virginicus* L. メリケンカルカヤ
平地の路傍・荒地・草地, 丘陵草原 やや普通 (1966) 北米原産
205. *Anthoxanthum odoratum* L. ハルガヤ
平地の路傍, 山野の路傍・草地 (野生化) やや稀 (1971) 欧州原産
206. *Avena barbata* Brot. ミナトカラスムギ
平地の路傍・荒地・畑地 (野生化) 極稀 (1974) 欧州原産

207. *Avena fatua* L. カラスムギ
平地の路傍・荒地・畑地（野生化） 普通 （1972） 欧州・西アジア・北アフリカ原産
208. *Avena sativa* L. オートムギ（マカラスムギ）
平地の路傍・畑地（野生化） 極稀 （1974） 欧亜大陸原産
209. *Briza maxima* L. コバンソウ
平地の路傍・草地 極稀 （1930） 欧州原産
210. *Briza minor* L. ヒメコバンソウ（スズガヤ）
平地の路傍・畑地・草地・堤防 極普通 （1929） 欧州原産
211. *Bromus brizaeformis* Fisch. et Mey. ニセコバンソウ
丘陵草原 極稀 （1973） 欧州原産
212. *Bromus catharticus* Vahl イヌムギ
平地の路傍・草地 やや稀 （1971） 南米原産
213. *Bromus commutatus* Schrad. ムクゲチャヒキ
平地の路傍・草地 稀 （1980） アジア西部～北アフリカ原産
214. *Bromus secalinus* L. カラスノチャヒキ
平地の路傍 極稀 （1974） 欧亜大陸原産
215. *Bromus tectorum* L. ウマノチャヒキ（ヤセチャノキ）
平地の路傍 極稀 （1974） 欧州原産
- 215' ——— var. *glabrathus* Spenner メウマノチャヒキ
平地の路傍 極稀 （1974） 欧州原産
216. *Chloris gaiana* Kunth ローズソウ（アフリカヒゲシバ・ケナシヒゲシバ）
平地の路傍・荒地 やや稀 （1973） 南アフリカ原産²⁴⁾
217. *Chloris virgata* Swartz オヒゲシバ（チョウセンオヒシバ）
平地の路傍・畑地 極稀 （1973） 熱帯アメリカ原産
218. *Coix lacryma-jobi* L. ジュズダマ（トウムギ）
平地の池溝辺 極普通 （1937） 熱帯アジア原産
219. *Dactylis glomerata* L. カモガヤ
平地の路傍・草地（野生化） 普通 （1949） 欧州～西アジア原産
220. *Dactyloctenium aegyptium* (L.) P. Beauv. タツノツメガヤ
平地の路傍 極稀 （1965） 熱帯アジア原産
221. *Digitaria timorensis* (Kunth) Balansa コメヒシバ
平地の路傍・畑地 極普通 （1936） アジア熱帯～暖帯原産
222. *Eleusine coracana* (L.) Gaertn. シコクビエ（コウボウビエ）
平地の草地（廃田）（野生化） 極稀 （1974） インド・中アジア原産
223. *Eragrostis amabilis* Wight et Arnott ヌカカゼクサ
平地の路傍・荒地 稀 （1980） アジア熱帯～亜熱帯原産
224. *Eragrostis cilianensis* (All.) V. Lut. スズメガヤ（オオスズメガヤ）
平地の荒地 極稀 （1974） 欧亜大陸原産

225. *Eragrostis curvula* (Schrud.) Nees シナダレスズメガヤ (セイタカカゼクサ)
平地の路傍・堤防, 山野の路傍 (野生化) 普通 (1971) 南アフリカ原産
226. *Eragrostis poaeoides* P. Beauv. ex Roem. et Schult. コスズメガヤ
平地の路傍・荒地・草地・線路脇 やや普通 (1972) 欧亜大陸原産
227. *Festuca arundinacea* Schreb. オニウシノケグサ
平地の路傍・荒地・草地 (野生化) 極普通 (1972) 欧州原産
228. *Festuca bromoides* L. イヌナギナタガヤ
平地の路傍・草地 稀 (1973) 北米原産
229. *Festuca myuros* L. ナギナタガヤ
平地の路傍・草地・堤防 やや稀 (1970) 欧州～北アフリカ原産
230. *Festuca octoflora* Walt. ムラサキナギナタガヤ
平地の路傍・草地・堤防・荒地 やや普通 (1972) 北米原産
231. *Holcus lanatus* L. シラゲガヤ
平地の路傍, 山野の路傍 (野生化) やや普通 (1970) 欧州原産
232. *Hordeum pusillum* Nutt. ミナトムギクサ
平地の路傍 極稀 (1972) 北米原産
233. *Koeleria phleoides* (Vill.) Pers. ミノボロモドキ (アオセトガヤ)
平地の路傍・堤防・草地 やや稀 (1973) 欧州原産
234. *Lolium multiflorum* Lam. ネズミムギ
平地の路傍・荒地・草地 (野生化) 普通 (1958) 欧亜大陸原産
- 234' ——— f. *ramosum* Guss. エダウチネズミムギ
平地の路傍 極稀 (1974) 欧亜大陸原産
235. *Lolium perenne* L. ホソムギ
平地の路傍・荒地・草地 (野生化) 極普通 (1966) 欧州原産
236. *Lolium subulatum* Vis. ボウムギ (トゲムギ・トゲシバ)
平地の路傍 極稀 (1960) 欧州原産
237. *Lolium temulentum* L. ドクムギ
平地の路傍 極稀 (1973) 欧州原産
238. *Panicum dichotomiflorum* Michx. オオクサキビ
平地の路傍・荒地・庭地 普通 (1970) 北米原産
239. *Panicum maximim* Jacq. ギネアキビ
平地の庭地 極稀 (1977) 南アフリカ原産
240. *Paspalum dilatatum* Poir. シマスズメノヒエ
平地の路傍・荒地・草地 (野生化) 極普通 (1968) 南米原産¹³⁾¹⁴⁾²⁴⁾
241. *Paspalum distichum* L. キシュウスズメノヒエ (カリマタスズメノヒエ)
平地の水田・溝辺・水湿地 極普通 (1958) 熱帯アジア原産¹¹⁾
242. *Paspalum minus* Fourn. コアメリカスズメノヒエ
平地の路傍・草地 やや普通 (1972) 南米原産

243. *Paspalum notatum* Flügge アメリカスズメノヒエ
平地の路傍・草地 普通 (1972) 南米原産²⁴⁾²⁹⁾
244. *Paspalum urvillei* Steud. タチスズメノヒエ
平地の路傍・荒地・堤防 極普通 (1973) 南米原産
245. *Phalaris canariensis* L. カナリークサヨシ (カナリヤクサヨシ・ヤリクサヨシ)
平地の路傍・荒地 (野生化) やや稀 (1970) 地中海沿岸原産
246. *Phalaris minor* Retz. ヒメカナリークサヨシ
平地の草地 極稀 (1972) 欧州原産
247. *Phleum pratense* L. オオアワガエリ
平地の路傍・草地, 丘陵の路傍 やや普通 (1966) 欧亜大陸原産
248. *Poa compressa* L. コイチゴツナギ
平地の草地・堤防 極稀 (1972) 欧州原産
249. *Poa pratensis* L. ナガハグサ
平地の路傍・草地 やや稀 (1974) 欧州原産
250. *Sorghum halepense* Pers. セイバンモロコシ (ヒメモロコシ別名ノギナシセイバンモロコシを含む)
平地の路傍・荒地・草地 (野生化) 普通 (1971) 欧州原産

Hydrocharitaceae トチカガミ科

251. *Elodea Nuttalli* (Planch.) St. John コカナダモ
平地の河川・湖沼 稀 (1987) 北米原産
252. *Egeria densa* (Planch.) St. John オオカナダモ
平地の河川・湖沼・池溝 やや稀 (1985) アルゼンチン原産

以上宮崎県に産する帰化植物は、42科、252種・7変種・1品種(260種類)を数えることができる。これは国内に自生している帰化植物の総数800種類の約33%に当たる。なお、科別にみると、イネ科が53種類で最も多く、次いでキク科の50種類、マメ科17種類、アブラナ科15種類、ナデシコ科とヒユ科が12種類、ヒルガオ科11種類、ナス科10種類、タデ科8種類、アオイ科・トウダイグサ科・アカザ科各5種類、シソ科・アカバナ科・カタバミ科・アヤメ科各4種類、アカネ科・オオバコ科・ゴマノハグサ科・ユリ科各3種類、キキョウ科・クマツヅラ科・セリ科・オトギリソウ科・ケシ科・ヒガンバナ科・トチカガミ科各2種類、オミナエシ科・サクラソウ科・ウコギ科・ジンチョウゲ科・ミソハギ科・フウロソウ科・バラ科・ベンケイソウ科・キンポウゲ科・スベリヒユ科・ザクロソウ科・ヤマゴボウ科・オシロイバナ科・ミズアオイ科・ツユクサ科各1種類となる。これらの種類数からみた科の順位はほぼ全国的傾向に一致する。

おわりに

宮崎県に産する帰化植物について、1990年現在42科、252種・7変種・1品種(260種類)を記

録した。これら帰化植物の本県への侵入状態は、筆者が県内外の研究機関や個人所有の標本と、実地に調査して得た結果を1974年に報告する以前は、1937年と1952年に発刊された植物目録とわずかに残る標本に頼るほかなかった。かくして、昭和年代に入つてようやく始まった本県帰化植物の歴史は、次第に明らかになり、侵入して来る種類数も第2次世界大戦後急激に増えたことは全国的傾向の通りである。しかし、本県の場合は交通網発達の遅れや、港湾・空港の未整備も影響してか、直接外国から侵入するものは少なく、いったん国内に帰化したものが、人、物資、輸送機関等の移動に伴って2次的に侵入して来るものが殆どである。従つて、路傍・道路工事跡等に帰化植物が最も現れ易く、次いで港付近で、空港は第7位となっている。ただし、まれに県内でもヒュウガミヤコグサやイトバオオバコのように本邦未記録の新帰化植物が採集されることがある。

本県での帰化植物の分布状態を見ると、種類によっては旺盛な繁殖力で、A：県下全域に生活圏を拡大しているものもあれば、限られた環境だけに土着して、B：県内各地に散在するもの、またC：山地や沿海地などの地域だけに分布するもの、分布がD：1地域か極く少数地域に限られているものなどがある。いずれにせよこれらの帰化植物は、今後県内での交通輸送機関の活発化とあいまって、開発による自然破壊と裸地の増加、更には都市化による土質変化などにより、ますます増えるものと考えられる。帰化植物の侵入は、単に在来種を圧迫して生態系を変えろといった植物生態学上の問題だけでなく、公害源としての要素を大いにはらみつたあることを認識すべきであろう。

参考文献

- 1) 荒木徳蔵, 1974. 宮崎県の帰化植物, 宮崎県総合博物館研究紀要, 2: 3~22
- 2) 荒木徳蔵, 1974. 宮崎県の帰化植物, 植物採集ニュース, 75: 38~39
- 3) 荒木徳蔵, 1975. 宮崎県の帰化植物 (続報), 宮崎県総合博物館研究紀要, 3: 1~20
- 4) 荒木徳蔵, 1977. 宮崎県の帰化植物追加, 植物採集ニュース, 90: 67~68
- 5) 荒木徳蔵, 1980. 宮崎県の帰化植物目録 補遺 (II), 宮崎県総合博物館研究紀要, 5: 33~38
- 6) 荒木徳蔵, 1983. 宮崎県の帰化植物 (第4報), 宮崎県総合博物館研究紀要, 8: 47~79
- 7) HINO, I. and ENDŌ, S., 1937. List of vascular plants found in Miyazaki Prefecture, 宮崎高等農林学校学術報告, 9: 14~90
- 8) 平田正一, 1952. 宮崎県産植物目録補遺 (I), 服部植物研究所紀要, 7: 1~15
- 9) 平田正一, 1977. 宮崎の植物 (I), 宮崎日日新聞社
- 10) 平田正一, 1984. 宮崎県植物誌, 宮崎日日新聞社
- 11) 久内清孝, 1950. 帰化植物, 科学図書出版社
- 12) 市河三次・富田仁, 1975. 花粉アレルギーと抗原植物, 黎明書房
- 13) 笠原安夫, 1970. 日本雑草図説, 養賢堂
- 14) 北村四郎他, 1967. 原色日本植物図鑑 (上~下), 保育社
- 15) 前川文夫, 1943. 史前帰化植物について, 植物分類地理, 13: 274~279
- 16) 牧野富太郎, 1989. 改訂増補牧野新日本植物図鑑, 北隆館
- 17) 沼田真, 1975. 帰化植物, 大日本図書
- 18) 沼田真他, 1980. 新版日本原色雑草図鑑, 全農協
- 19) 小倉謙, 1959. 植物の事典, 東京堂
- 20) 大井次三郎, 1972. 改訂新版日本植物誌 顕花篇 至文堂

- 21) 奥山春季, 1970. 原色日本野外植物図譜, 誠文堂新光社
- 22) 奥山春季, 1977. 寺崎日本植物図鑑, 平凡社
- 23) 長田武正, 1972. 日本帰化植物図鑑, 北隆館
- 24) 長田武正, 1976. 原色日本帰化植物図鑑, 保育社
- 25) 長田武正, 1984. 野草図鑑, (1~7), 保育社
- 26) 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図鑑, 平凡社
- 27) 長田武正他, 1967. 帰化植物図譜, 第一学習社
- 28) 長田武正・富士堯, 1976. 帰化植物, 保育社
- 29) 佐竹義輔他, 1982. 日本の野生植物 (I~III), 平凡社
- 30) 佐竹義輔他, 1989. 日本の野生植物木本 (I~II), 平凡社
- 31) 埴田宏, 1974. 環境汚染と指標植物, 共立出版
- 32) 山口裕文, 1986. 帰化雑草ニワゼキショウ属植物について, 植物分類地理, 37 (4~6): 143

(1990年9月30日受理)